

| | | | |
|---------|---|---------|----------------------|
| 科目名 | 長崎県北の歴史と文化－西海学Ⅰ | | |
| 科目番号 | A-1 | 開設大学名 | 長崎県立大学 佐世保校 |
| 開講場所 | 長崎県立大学 佐世保校 | 教養・専門の別 | 専門 |
| | | 単位数 | 2単位 |
| 開講期間 | 平成29年4月7日(金)～ ～平成29年7月21日(金) | 曜日 | 金曜日 |
| | | 時限 | 3時限目 |
| 開講時間 | 13時00分～14時30分(90分) 「毎週金曜日」 | 授業定員 | 100人(うち単位互換定員 20人) |
| | | 履修年次 | 3年次以上 |
| 実習費等 | なし | 選考方法 | 書類選考 |
| その他特記事項 | テキスト:山田千香子・吉居秀樹編著『平戸・西海学－長崎県北の歴史と文化』桜蘭舎 | 試験・評価方法 | レポート及び出席その他授業への取組による |

| 開講日 | 講義名 | 担当教員 |
|---------|-------------------------------|--------------------------------|
| ① 4月7日 | はじめに :科目趣旨および全体講義概要について | 吉居 秀樹 長崎県立大学佐世保校 地域政策学科教授 |
| ② 4月14日 | 北松地方の人類活動の始まりー洞窟遺跡を中心として(旧石器～ | 川内野 篤 佐世保市教育委員会 社会教育課教育文化係 |
| ③ 4月21日 | 倭国から大和朝廷に至る時代の北松地方(弥生～古墳) | 北島 聖美 平戸市教育委員会 文化遺産課文化遺産班 |
| ④ 4月28日 | 五島列島の海外交流史(平安～室町) | 塚原 博 元小値賀町教育委員会 小値賀町歴史民俗資料館 |
| ⑤ 5月12日 | 元寇と鷹島海底遺跡(平安～鎌倉) | 中田 敦之 松浦市教育委員会 生涯学習課 |
| ⑥ 5月19日 | 北松地方の城郭(弥生～江戸) | 久村 貞男 元佐世保市教育委員会社会教育課 |
| ⑦ 5月26日 | 平戸と中国貿易(戦国～現代) | 岡山 芳治 財団法人 松浦史料博物館 |
| ⑧ 6月2日 | 南蛮貿易とキリシタン(戦国～現代) | 中園 成生 平戸市生月町博物館 島の館 |
| ⑨ 6月9日 | 西海捕鯨業(江戸) | 中園 成生 平戸市生月町博物館 島の館 |
| ⑩ 6月16日 | 平戸松浦氏と平戸藩の成立(江戸) | 木田 昌宏 財団法人 松浦史料博物館 |
| ⑪ 6月23日 | 長崎県北の文化遺産と平戸藩主(江戸) | 久家 孝史 財団法人 松浦史料博物館 |
| ⑫ 6月30日 | 平戸和蘭商館(江戸) | 萩原 博文 平戸市教育委員会 文化遺産課 |
| ⑬ 7月7日 | 平戸藩と中国貿易(江戸) | 浦部 知之 平戸市振興公社 平戸城 |
| ⑭ 7月14日 | 県北窯業史(平戸、三川内、波佐見)(江戸) | 中野 雄二 波佐見町教育委員会 文化財保護係 |
| ⑮ 7月21日 | 終わりに(講師によるパネルディスカッションおよび質疑応答) | |

連絡先 | 長崎県立大学 佐世保校 学生支援課 教務グループ TEL 0956-47-5706 FAX 0956-47-46

(科目内容) 本講義では本学が設置されている「長崎県」をテーマとして、西海という海上を舞台とした視点から歴史や文化、文化交流、文化遺産について体系的に考えていく。西海学Ⅰにおいては、とくに平戸を中心とした長崎県北の歴史と文化に焦点をあてる。歴史区分設定は古代から近世までとしている。長崎県北の歴史や文化、文化遺産について理解を深めること。とくに「海」を中心として展開されてきた歴史や文化であることや、その背景となる「西海圏」の広がりに気づき、東アジアを含めて全体的に俯瞰できることを目標としている。本地域在住の研究者(12名)によるオムニバス形式の講義である。

学生の感想・
教員のコメント等

学生A:
地域をつくることには、まず第一に地域を知ることから始めなくてはならないことを実感した。地域計画といっても、何も無い土地に建物を作ったり、制度を導入するわけではない。まず、先にその土地の自然環境があり、人があり、そして人々の生活がある。地域によって異なる条件をもつものだから、そのうえに行われる政策も異なるはずだ。そのため、学術調査は不可欠のものであり研究者の必要性を感じた。

学生B:
グローバル化の進展とともに、地域特性はつぶされてきた。日本では全国総合開発計画が一律の基準を地域に押し付けてきた。それによって崩壊しつつあるアイデンティティをまちづくりで復活させなくてはいけない。地域の歴史や文化が人を創ってきたアイデンティティの源である。必要不可欠なものなのだ。学術調査によって裏打ちされた地域学を踏まえてまちづくりを行っていくことが必要であると感じた。



| | | | |
|---------|---------------------------------------|---------|----------------------|
| 科目名 | 長崎県北の歴史と文化－西海学Ⅱ | | |
| 科目番号 | A-15 | 開設大学名 | 長崎県立大学 佐世保校 |
| 開講場所 | 長崎県立大学 佐世保校 | 教養・専門の別 | 専門 |
| | | 単位数 | 2単位 |
| 開講期間 | 平成29年10月6日(金)～ ～平成30年2月2日(金) | 曜日 | 金曜日 |
| | | 時限 | 3時限目 |
| 開講時間 | 13時00分～14時30分 (90分) 「毎週金曜日」 | 授業定員 | 100人 (うち単位互換定員 20人) |
| | | 履修年次 | 3年次以上 |
| 実習費等 | なし | 選考方法 | 書類選考 |
| その他特記事項 | テキスト:山田千香子・吉居秀樹編著『平戸・西海学Ⅱ－佐世保の近代化』桜蘭舎 | 試験・評価方法 | レポート及び出席その他授業への取組による |

| 開講日 | 講義名 | 担当教員 |
|--|--|---|
| ① 10月6日 | はじめに :科目趣旨および全体講義概要について | 吉居 秀樹 <small>長崎県立大学佐世保校 地域政策学科教授</small> |
| ② 10月13日 | 自然環境について(1)地勢史 | 川内野 善治 |
| ③ 10月20日 | 自然環境について(2)動・植物 | 川内野 善治 |
| ④ 10月27日 | 自然環境について(3)水生動物 | 川久保 晶博 <small>西海国立公園九十九島水族館</small> |
| ⑤ 11月10日 | 長崎県北の近代前(相浦・早岐・江迎地区を中心として) | 久村 貞男 <small>元佐世保市教育委員会社会教育課</small> |
| ⑥ 11月17日 | 佐世保の近代－都市の形成(明治・大正・昭和・軍港として) | 祖谷 敏行 |
| ⑦ 11月24日 | 佐世保の近代－都市以降(終戦から現代:軍港・米軍) | 篠崎 正人 <small>リムピース佐世保編集部</small> |
| ⑧ 12月1日 | 佐世保の近代－都市的整備事業 | 川内野 篤 <small>佐世保市教育委員会 社会教育課教育文化係</small> |
| ⑨ 12月8日 | 未定 | 未定 |
| ⑩ 12月15日 | 長崎県北の産業－造船(佐世保工場・SSK) | 橋口 孝三郎 |
| ⑪ 12月22日 | 長崎県北の産業－商業(市街地形成) | 田代 明 <small>社会福祉法人 むすび会</small> |
| ⑫ 1月5日 | 長崎県北の産業－水産業(近代捕鯨、遠洋巻網、以西底引き等) | 中園 成生 <small>平戸市生月町博物館 島の館</small> |
| ⑬ 1月19日 | 長崎県北の産業－観光の歴史(再開国立公園から現在まで) | 蓮田 尚 <small>佐世保市教育委員会</small> |
| ⑭ 1月26日 | 地方史を学ぶことの意義 | 小川 照郷 <small>ライフ企画社</small> |
| ⑮ 2月2日 | 終わりに(講師によるパネルディスカッションおよび質疑応答) | |
| 連絡先 | 長崎県立大学 佐世保校 学生支援課 教務グループ TEL 0956-47-5706 FAX 0956-47-46 | |
| (科目内容) 西海学Ⅱにおいては、西海学Ⅰの内容を踏まえて、長崎県北の近代から現代までに焦点をあて、とくに佐世保を中心とした自然環境、そこで育まれてきた歴史と文化に焦点をあてる。長崎県北の歴史や文化、文化遺産について理解を深めること。とくに西海学Ⅱでは長崎県北の「近代」の発展の歴史、その発展を支えてきた背景について全体的に把握できること。近代から現代までを「西海圏」のなかで改めてとらえ直し、東アジアにおける現在の位置づけだけではなく、長崎県北の未来に向けての課題について考察できることを目標としている。本地域在住の研究者(12名)によるオムニバス形式の講義である。 | | |

学生の感想・
教員のコメント等

学生C:
この講義は、地域を多角的にみることの重要性を痛感する科目であった。私が西海学Ⅰ・Ⅱを受講した大きな理由は、入学当初に思い描いていた「長崎県立大学」で学ぶ意義を自分なりに探していたからである。あえて大学4年という時期にこの講義を取ったことは、私にとって大きな知的財産となったと感じている。この講義を学んだことで地域政策学科で学んできたことの総復習となり、この大学・学科を選んだことへの意義付けを自分なりに再確認できたと思う。

学生D:
この西海学Ⅱの授業は、それぞれ分野の違う地域の方による専門分野の講義であった。このような機会があるというのは本当に貴重であり、地域政策学科だからこそその講義であると思う。佐世保という地域を知り尽くした方々による講義であるので、より詳しく、自分自身が観てきたものをしっかりと伝えて下さったので、現実味があつたし、佐世保の良さや問題点も見えてきて、この講義を通して佐世保の地域性について多くのことを学ぶことができた。

